

株式会社幸建

『建設業界にもDX化の波を！』 『RPAで自社の強みを活かす』

株式会社幸建 概要・実証計画【1/2】

企業概要

KOKEN

企業名	株式会社幸建
所在地	愛知県春日井市
代表	山本 邦夫
資本金	1,000万円
従業員数	27人
事業内容	基礎・外構・造成工事

- 私達が何よりも大切にしていることは、住んでいただくお客様の立場でモノづくりをすること。
- 創業50年の実績
- 平均年齢30歳
- 独立支援制度あり

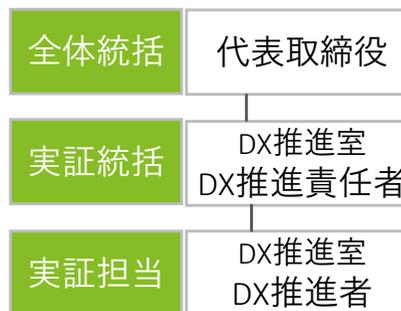
概要



デジタル化推進の背景

- 昨今、社会や業務のデジタル化が急速に進んでおり、当社を含む建設業界においても例外なくデジタルを基盤とした事業の再構築が求められたため。
- 当社では、DX推進を最重要課題として認識し、DXビジョンの策定し、2023年1月1日にはDX認定を取得するなど、DXへの取組を進めています。

実証体制



- 「経営トップ直下にDXを推進する組織として「DX推進室」を設置し、伴走支援者と協力しデジタルに関する調査・研究を実施するとともに、業務へのデジタルツールの導入やプラットフォームの構築を推進します。

『RPAという武器で武装する』 『RPAとは何か、から始める』

株式会社幸建 概要・実証計画【2/2】

最終的にデジタル化で達成したいこと

全社的なデジタル活用による業務効率化。

- 管理部門だけでなく、営業部門にもRPAを波及することにより全社員が自発的にデジタルによる業務改善をおこなえる環境を作る。

今回実証で実施したいこと

- 2種類のシステムにそれぞれ同じデータを入力している作業重複を解消することを目的に、片方に入力するともう片方に自動反映させるRPAの構築。
- 会計処理を早期化することやリードタイムの短縮を目的に、資料を自動作成するRPAの構築。
- 業務の効率化と作業負担の軽減を目的に、原価管理ソフトへの自動入力や写真へロゴを自動挿入するRPAの構築。
- RPAの作成方法を勉強してもらう目的で、Power Automateで既に作成しているRPAフローをRKシリーズで作り直してもらう。

目標とする成果

- 重複作業を解消することで、残業時間を月10時間削減。
- 会計処理で使用する資料を自動作成することにより、処理を早期化し、リードタイムを2時間短縮する。
- 原価管理ソフトへの自動入力や写真へロゴを自動挿入することにより、作業時間を月2.7時間軽減をする。
- 管理部門だけでなく、営業部門も含めた全部門でRPAを作成できる環境づくり。

実証で利用するツール

導入ツール	ナビ搭載 業務自動化RPA RKシリーズ
導入費用	開発版ライセンス9.9万円（作成と運用） 実行版2万円（運用のみ）
ツールの説明	<ul style="list-style-type: none">➢ 株式会社キーエンスが提供するRPA（Robotic Process Automation）ツール。➢ ルーチン業務や定型業務を自動化することで、業務の効率化、省力化を実現する。➢ ナビに沿って進めるだけの「フローナビゲーション」で容易に自動化シナリオが作成できる。➢ 業務診断から実運用までを手厚く支援する「無料伴走サポート」が心強い。

選択理由：他社のRPAに比べ、RKシリーズはフローの作成難易度が低く、RPAに馴染みの無い者でも利用できると考えたため

『RPA = 専門的という固定概念を破壊する』 『自らが自らの業務をRPA化する』

株式会社幸建 実証実施結果【1/4】

解決を目指した具体的な課題

データ入力精度の改善

- 2種類のシステムにそれぞれ入力されていたデータは手入力であるが故、同一のデータが入っておらず、間違い探しが起こっていた。
- 資料の元となるデータを出力する際の手順が複雑なため、ミスが多く、かつ属人化していた。

作業時間の短縮

- 元請からPDFで届く注文書に記載の売上金額などを原価管理ソフトへ入力する際、注文書の枚数が多いため処理に時間が掛かっていた。
- インスタグラムへ投稿する写真に会社のロゴを入れるが、ロゴのサイズや位置を合わせ、加工するため時間が掛かっていた。

RPA構築の属人化

- RPAが構築可能なのは管理部門だけのため、他部署では思うようにRPA化が進んでいない。

課題解決に向けた具体的な取組内容

データの連携

- 片方のシステムに入力されたデータを読み取り、もう片方のシステムに連携可能にするため、片方のシステムに入力するフォーマットを変更し、データ連携できるようにした。
- 資料作成手順をリストアップし、その手順通りに稼働するRPAを構築した。

自動化への手順検討

- 元請からPDFで届く注文書をエクセル化した。売上金額の部分のセルを読み取り、それを原価管理ソフトへ転記するRPAを構築した。
- ロゴの配置とサイズを決めるテンプレートを作成し、それを写真に適応させてRPAを構築した。

他部署へのRPA普及

- キーエンスの伴走サポートへの参加やPower AutomateのRPAをRKシリーズへ移し替える作業でRPAについての理解を深めた

『アナログな建設業界でも出来る』 『業務のRPA化に成功』

株式会社幸建 実証実施結果【2/4】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

【実証時に感じた壁】

初めてのRPA利用に伴う、RPAの概念の理解や操作方法の習得

- RPAの内容を知らない者も多く、RPAとは何か、RPAを利用することで何が出来るかなどを理解してもらう必要があった。
- パソコン操作に不慣れな者が多く、RPAの操作を問題なくおこなえるかの心配があった。

【克服のためのアクション】

- キーエンスのRPAの伴走サポートを活用し、RPAの概念の理解や操作方法の習得に役立てた。



伴走サポートの様子

取組に要した工数

全体統括	代表取締役	DX推進責任者からの報告に1時間／月
実証統括	DX推進室 DX推進責任者	実証担当者との打合せ4時間／月
実証担当	DX推進室 DX推進者	改善案の検討とRPA作成に22時間／月

取組の成果

重複作業の解消

- 片方のシステムに入力したデータをもう片方のシステムに連携することで、事務作業を1.7時間／月の軽減に成功した。

会計処理で使用する資料を自動作成

- 資料を自動作成することにより、入力ミスを回避し、かつ処理を早期化し、リードタイムを2時間／月の軽減に成功した。

事務作業の自動化

- 元請からPDFで届く注文書に記載の売上金額を原価管理ソフトへ転記する作業をRPA化した。
- ログを自動配置する作業をRPA化した。

社内のRPA普及

- 管理部門だけでなく、営業部門でRPAを構築できた。

『入力時間の削減とミスの激減』 『管理職のチェック作業も容易に』

株式会社幸建 実証実施結果【3/4】

Before

エクセルのデータを基に、原価管理システムへ手入力

項目名称	仕様	数量	単位	単価	金額
基礎工事		1.00	式	1,000,000	1,000,000

No.	属性	科目コード	商品名	仕様	単位	数量	単価	金額	消費税	工事コード	工事名	備考
1	通関	544100	外注加工費	基礎工事	式	1	1,000,000	100,000	1,100,000	2300100	外注加工(基礎)	
2	通関	544100	外注加工費		課税仕	10%	100,000	102	2300100	- 00	外注加工(基礎)	

After

項目名称	仕様	数量	単位	単価	金額
基礎工事		1.00	式	1,000,000	1,000,000

発注日	仕入先名	工事コード	検査	工事名	商品	単位	数量	単価	金額	消費税
2024/2/6	〇〇株式会社	5300100	00	春日井市上田楽町	基礎工事	式	1	1,000,000	1,000,000	100,000
2024/2/6	〇〇株式会社	2300200	00	中川区	残土処分	式	1	200,000	200,000	20,000
2024/2/6	〇〇株式会社	2300300	00	北名古屋市	基礎工事	式	1	1,300,000	1,300,000	130,000
2024/2/6	〇〇株式会社	2300400	00	春日井市大手町	外構工事	式	1	400,000	400,000	40,000
2024/2/6	〇〇株式会社	2300500	00	瑞穂区	基礎工事	式	1	800,000	800,000	80,000

No.	属性	科目コード	商品名	仕様	単位	数量	単価	金額	消費税	工事コード	工事名	備考
1	通関	544100	外注加工費	基礎工事	式	1	1,000,000	100,000	1,100,000	2300100	外注加工(基礎)	
2	通関	544100	外注加工費		課税仕	10%	100,000	102	2300100	- 00	外注加工(基礎)	

RPAでエクセルを読み取り、一括で集計エクセルに記入

集計エクセルを加工し、原価管理システムへデータ連携

『一番業務に詳しい担当がRPAを活用』 『改善意識の芽生え』

株式会社幸建 実証実施結果【4/4】

今後の課題・目標

業務改善意識の定着

- 従業員が自発的にRPAで改善可能な業務を見つけ、自らRPA作成を経て業務改善できる環境が重要。
- 全社的に生産性を向上する意識が芽生えることで、社内全体で協力して業務改善をおこなう。

社内への横展開の実施

- 今回の成功体験を機会に他部門への水平展開に着手したい。
- 人間がおこなうべき業務、RPAでおこなうべき業務を見極め、業務改善をおこないたい。
- 複雑なRPAでも、管理部門だけでなく営業部門で構築できるようにしたい。

生成AIの活用

- エクセルのデータ処理についてはRPAよりマクロの方が適しているため、ChatGPTでマクロのコードを出力し、管理部門以外もマクロを作成できるようにする。

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

伴走サポートなどを利用することにより、デジタルに不慣れな社員でもRPAで業務改善をすることができました。

管理部門など、RPAに慣れている部署で他部署の要望を聞き、RPAの作成代行をすることは可能ですが、実際にRPAで改善したい業務をおこなっている社員でないと、求めていた内容のRPAが生まれづらいという問題がありますので、その業務に実際に携わっている社員自らRPAを作成できることは重要です。

若く、やる気のある社員であればRPAを始めとしたデジタルツールを推進することができますので、専用人材を新たに雇用する必要はありません。